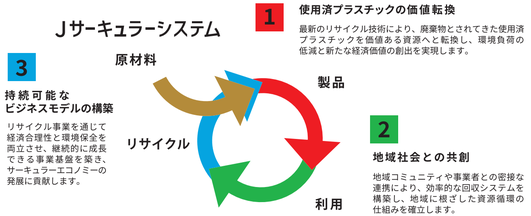
## CSR 活動方針　― 地域と共に、持続可能な未来へ ―

私たちは、「地域と共に、持続可能な未来へ」を合言葉に、地域社会との調和を重視した CSR 活動を展開していきます。
具体的には、環境教育プログラムの実施や工場見学の受け入れ、地域清掃活動への参加など、地域に根ざした環境保全活動を推進。
また、地域雇用の創出や防災訓練への参加、環境情報の積極的な開示など、地域社会との信頼関係構築に努めています。
これらの活動を通じて、地域と共に発展する企業を目指します。

## 「環境価値の創造」と「循環型社会の実現」へのミッション




**1　使用済プラスチックの価値転換**

最新のリサイクル技術により、廃棄物とされてきた使用済プラスチックを価値ある資源へと転換し、環境負荷の低減と新たな経済価値の創出を実現します。

**2　地域社会との共創**

地域コミュニティや事業者との密接な連携により、効率的な回収システムを構築し、地域に根ざした資源循環の仕組みを確立します。

**3　持続可能なビジネスモデルの構築**

リサイクル事業を通じて経済合理性と環境保全を両立させ、継続的に成長できる事業基盤を築き、サーキュラーエコノミーの発展に貢献します。

## 出資会社との連携とパートナーシップ

**【シナジー効果】**

- 3 社の強みを活かした統合的な資源循環システムの構築
- 鉄道事業と環境事業の融合による新たな価値創造
- グループ全体での環境負荷低減への貢献

| 東日本旅客鉄道株式会社 | 株式会社 JR 東日本環境アクセス | J&T 環境株式会社 |
|---|---|---|
| 駅や列車から排出される使用済プラスチックの効率的な回収 | 駅施設や商業施設での廃プラスチック回収ノウハウの提供 | プラスチックリサイクルの技術とノウハウの提供 |
| 鉄道ネットワークを活用した広域回収システムの構築 | 駅周辺エリアでの回収ネットワーク構築 | 効率的な選別・処理システムの構築支援 |
| 環境配慮型の鉄道事業との連携 | 環境美化活動との連携 | 環境負荷低減に向けた技術開発 |

| | |
|---|---|
| 社名 | 株式会社 J サーキュラーシステム |
| 所在地 | 神奈川県川崎市川崎区水江町 5 番地 1 |
| 代表者 | 奥野 隆一 |
| 事業内容 | 使用済みプラスチックリサイクル事業<br>一般廃棄物処理業・産業廃棄物処理業<br>産業廃棄物、一般廃棄物の再資源化およびリサイクル事業 |
| 資本金 | 9,000 万円 |
| 設立年月日 | 2023 年 7 月 14 日 |
| 出資者 | J&T 環境株式会社　東日本旅客鉄道株式会社　株式会社 JR 東日本環境アクセス |
| 処理能力 | 1 日あたり 200 t　年間 60,000 t |
| 処理品目 | 廃プラスチック類（一般廃棄物・産業廃棄物） |

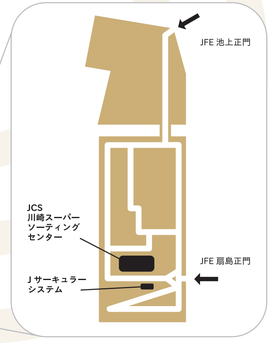

株式会社 Jサーキュラーシステム

川崎スーパーソーティングセンター
〒210-0866　神奈川県川崎市川崎区水江町５番地１
TEL：044-280-7791　FAX：050-1799-0142
www.j-circular.co.jp


**お車でお越しの場合**
首都高速神奈川 1 号横羽線大師 IC 出口より
産業道路 / 県道 6 号を約 4 km
池上正門から入場

**電車・バスでお越しの場合**
川崎駅より川崎市営バス「水江町行き（川 10）」
鶴見臨港バス「水江町行」
JFE 扇島正門前下車




## 脱炭素社会へむけたグローバルな循環型社会を形成する

JFEグループ、JR東日本グループ企業による、プラ新法に対応したプラスチックリサイクル共同事業

# J CIRCULAR SYSTEM

株式会社 Jサーキュラーシステム

## 循環から創造へ ― 持続可能な未来を共に築く ―

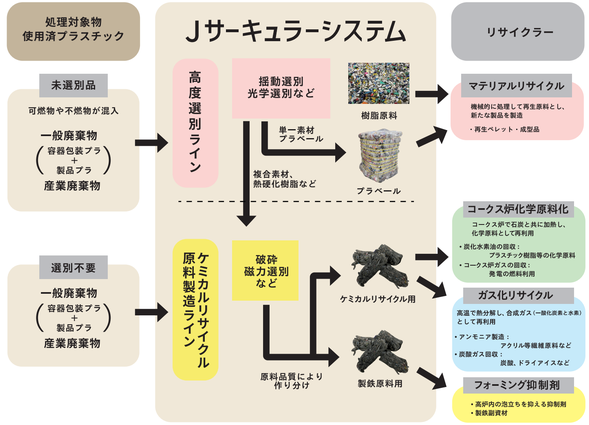
**私たち J サーキュラーシステムは、使用済プラスチックのリサイクル事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することを使命としています。**

**地球環境問題が深刻化する中、限りある資源を循環させ、新たな価値を生み出すサーキュラーエコノミーの実現は、現代社会における重要な課題です。**

**技術革新と誠実な企業活動を通じて資源循環の輪を広げ、次世代に豊かな環境を継承することで、持続可能な資源循環型社会の構築に貢献し、環境と経済が調和する未来を創造します。**

## J サーキュラーシステムの役割

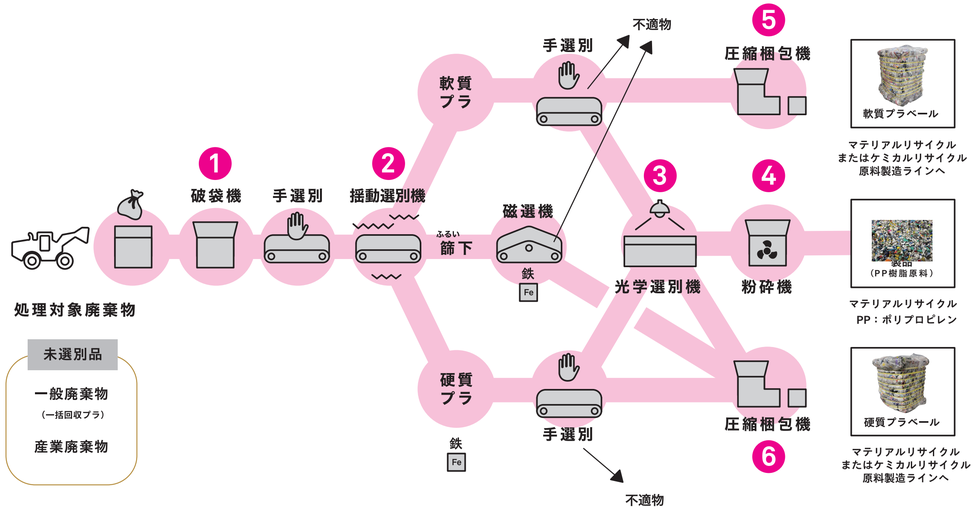
J サーキュラーシステムは、民間事業者から排出される産業系使用済みプラスチックとプラ新法に基づき自治体が回収する家庭系使用済みプラスチック双方を受入れ、リサイクラーが利用し易いリサイクルプラスチック原料（Recycled Plastic Material=RPM）を製造するという他に類をみないリサイクルシステムを通じて、プラスチック資源循環の高度化および脱炭素推進のトップランナーを目指し、持続可能な循環型社会の実現に貢献していきます。



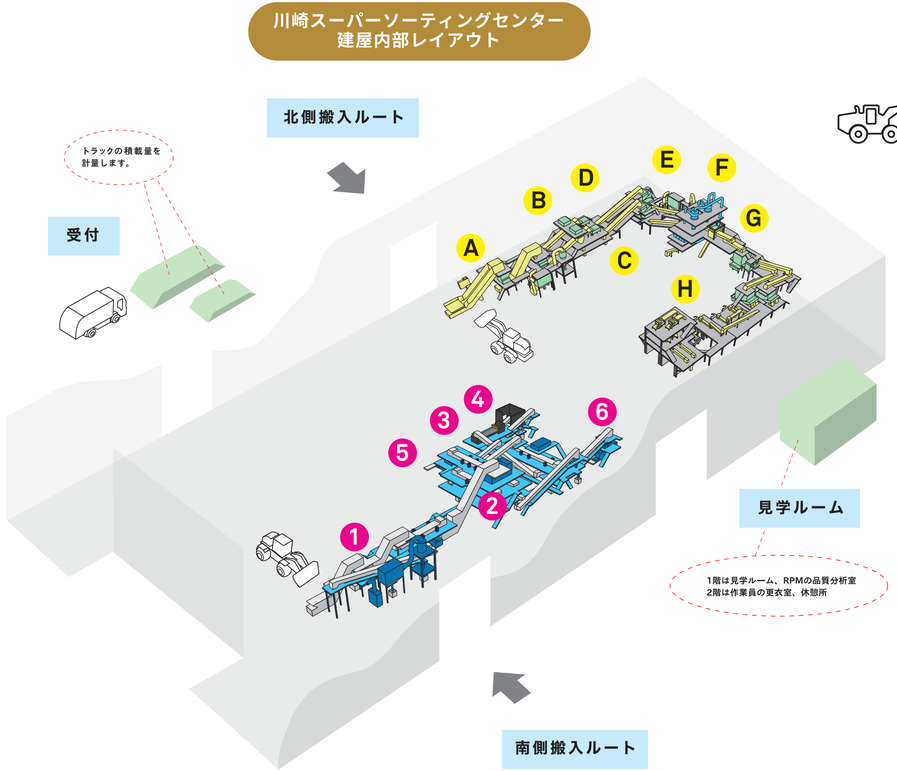
## 高度選別ライン

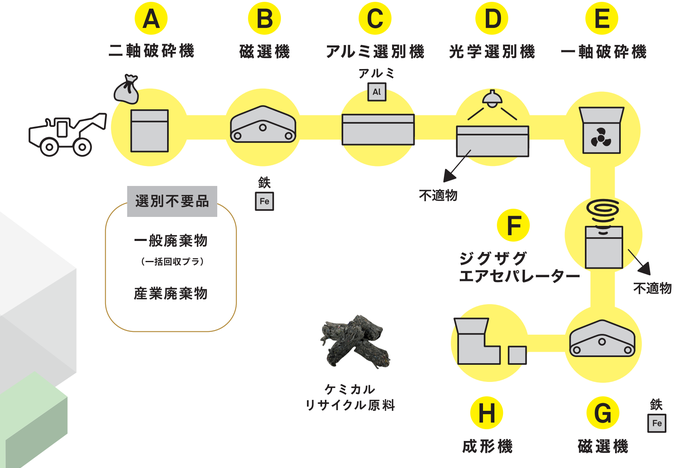
高度選別ラインは、まず破袋機で収集物を開封し、内容物を解放します。続いて、バリスティックセパレーター（揺動選別機）により、形状や比重の違いを利用して硬質プラと軟質プラに分別します。その後、光学選別機により、プラスチックの種類（主にPP）を自動的に識別・選別します。さらに、これらの機械による自動選別を補完するため、手選別工程を設けてリサイクル原料としての品質を確保することで、資源の無駄を減らし、環境への負荷軽減にも寄与します。

選別された使用済プラスチックの一部は、ケミカルリサイクル原料製造ラインへと送られます。




## 川崎スーパーソーティングセンター 建屋内部レイアウト




## ケミカルリサイクル原料製造ライン

ケミカルリサイクル原料製造ラインは、使用済プラスチックを化学原料として再利用するための前処理システムです。
処理工程では、まず二軸破砕機で使用済プラスチックを粗破砕し、続いて磁選機で鉄類を、アルミ選別機でアルミ類を、光学選別機で不適物を除去します。その後、一軸破砕機でさらに細かく粉砕し、ジグザグエアセパレーター（風力選別機）で重量異物を取り除きます。最後に成形機で一定サイズに成形することで、ケミカルリサイクルに適した原料が製造されます。
この工程で製造された原料は、決められた品質基準を満たすことで、ケミカルリサイクル施設での原料化処理に適した状態となります。これにより、プラスチックを化学的に分解し、新たな化学原料として再生することが可能となり、より高度な資源循環の実現に貢献しています。